

一貫教育校の広場

第20回を迎えた普通部の目路はるか教室

●普通部 教諭

荒川 昭

11月10日・11日の2日間、普通部では第20回目路はるか教室が行われました。目路はるか教室は労作展と並ぶ普通部独自の二大行事で、2017年で20回の節目を迎えました。目路はるか教室はその形を少しずつ変えながら、現在の、学年別全体講話（普通部で実施、学年ごと240人規模で90分の講話）と、コース別授業（先輩の職場で実施、25人規模、先輩からの3時間の授業）の2つが各学年で実施されます。

目路はるか教室の始まりは普通部百年にあたる1998年です。そのコンセプトは従来の講師を招聘しての講話とは異なり、より身近なOBによる授業という企画が立案され、その背景には「自ら学ぶ」という普通部の基本理念をいかに次代に継承、発展させていくかというテーマがありました。OBのなした経験が何よりもの財産と考え、それを現在・将来の普通部生に伝える機会を設け、大いに啓発したいと考えました。そしてこの触れ合いの中からは予測不可能な社会に立ち向かう気概と勇気を備えた人材が育つのではないかと考え、普通部生と卒業生が出会う場として実施されています。コース別授業を少人数授業形式としたのは、教育の原点が「福澤塾」にあることを思うとき、互いに学び合う人間同士の結びつきの中からこそ「自ら学ぶ」という姿勢が育ち、個性溢れる自由な発想が可能になると考えました。講師が普通部生に自らを語る場として、人間的な温かみや迫力が直に伝わるような両者の距離感や、先



輩が先輩を導く塾草創期の姿の再現をねらいとしたわけですが、従って最近の公立の学校でも行われている、いわゆる職業体験などとは、目路はるか教室は明らかに違うスタンスをとっており、先輩の生き様を学び、卒業生が先輩を思う熱い気持ちをぶつける場となっています。

このような目路はるか教室は、卒業生からなる世話人の方や講師の方に大変お世話になっています。毎年、新学期の始まる前の3月から、教員と講師選定の会議を行います。そこでコース別授業と全体講話の合計33人の講師が決まり、

決定した講師の方はプロフィール、授業内容を書きます。そして、今度は生徒が興味のあるコースを選び、コースが決定します。先輩とはいえ、一度も会ったことのない中学生を相手に3時間の授業をするのはとても大変なことです。各講師の方は見学やグループワークを行うなど、中学生でも集中できるように工夫してくださっています。このように、世

話人、講師の方々が年間を通じて献身的な取り組みをしてくださるおかげで、目路はるか教室はとても充実した先輩と後輩の交流の場になっています。この行事を通じて、普通部生に大きな変化があるように感じています。それは、全体講話の後に、講師の話に触発されて内容の濃い質問が多く出るようになったことです。間もなく目路はるか教室を普通部で受けた世代が、講師として戻ってきて先輩に熱く語ってくれることになると思います。今後ますますの目路はるか教室の発展を祈念しています。

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)